

三角西港とは

熊本県宇城市三角町に位置し、お雇い外国人技師者ムルデルの設計・指導により、**1887（明治20）**年8月に開港した『明治の三大築港』の一つに数えられる土木遺産です。石造護岸が有名な三角西港は、築港前は三角本町を中心としたひなびた漁村でしたが、築港とともに都市計画された港湾都市となり、その後保養都市となりました。

平成27年7月5日、ドイツのボンで開催された第39回ユネスコ世界遺産委員会において、熊本市宇城市三角町に立地する三角西港が「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の資産の一部として、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。

三角西港WSとは

将来のまちづくりの担い手となる宇城市立三角小学校の6年生を対象に「私たちのふるさと、三角西港を未来に伝える」WSを計3回実施しました。三角西港における文化的景観保全に対する理解を基盤とした地域学習のワークショップを通じて、三角小学校の児童たちが大学生と共に学びを得る場を作ることが目的としています。

1回目「三角西港らしい風景探し」

第1回のWSは、「三角西港らしい風景探し」と題し、8班に分け、大学生と一緒に班ごとに、三角西港の主要観光ルートを60分程度歩き、「三角西港らしい」風景を探してデジカメに納め、ふりかえりの時間で、個人で「三角西港らしい」風景を選び、班ごとに「三角西港らしさ」とは何か、キャッチフレーズを考えてもらいました。

特に、風景を探す際には、主要観光ルート以外の地元ならではのルートも教えてもらい、教える側が教えてもらうようなこともありました。

2回目「三角西港のガイドブックづくり」

第2回のWSは、「三角西港のガイドブックづくり」と題し、第2回で班ごとに、三角西港の主要観光ルートを歩いて探しました。「三角西港らしい」風景を、各自がポスター（A3）にして、5枚（4枚）を並べて、物語のあるガイドブック（紙芝居風）を、班で一つ作りました。

各班が選んだ「三角西港らしさ」

- 1班：昔の風景などが味わえる所
- 2班：自然や古いものが残る場所
- 3班：自然や古いもの新しいものがたくさん集まっている三角西港
- 4班：自然ややさしさがあじわえる所
- 5班：明治時代にタイムスリップした気分になれる場所
- 6班：自然と海と歴史いっぱい西港
- 7班：明治をたんのうできる三角西港
- 8班：山から海まで水がつながっているところ

各班らしさを出したイラストと物語が元気の良い発表で伝えられ続く第3回への期待が高まりました。

3回目「三角西港をガイドしてみよう」

第3回のWSは、「三角西港をガイドしてみよう」と題し、各班で作成し、ガイドブックを携えて、観光客役のボランティアガイドの皆さん、保護者たち大人に対して、三角西港のボランティアガイド体験を行いました。

ガイドを通して大学生、保護者と一緒に行動し、逆に保護者からガイドされる場面もあったりと多くの学びを得る場になりました。

振り返りシート

全3回の活動では各活動の終わりに振り返りシートを用いた振り返りを小学生を対象に行いました。このシートは活動に参加した小学生が活動のどこに関心を持ち、何を学ぶことが出来たのかシートから読み取ることができ、活動の見直しと来年以降の活動へ学びを得る際に使用します。

このようにわが地域風土計画研究室では地域と一緒にって行うまちづくりを目指し日々活動しています。実際に現地で活動することで地域の方に触れて多くの経験、学びを得ることが出来ます。



写真1：三角西港観光MAP



写真2：浦島屋(MAP中①)



写真3：海運倉庫とアコウの木(MAP中③)



写真4：港から見える天草5橋(MAP中⑦)



写真5：実際に歩いての風景探し



写真6：風景さがし



写真7：班ごとの物語が作られる



写真8：物語をみんなの前で発表



写真9：保護者に自分たちでガイドを行う



写真10：ガイドで多くの交流が生まれる



写真11：大学生もガイドを受ける



写真12：みんなで集合写真

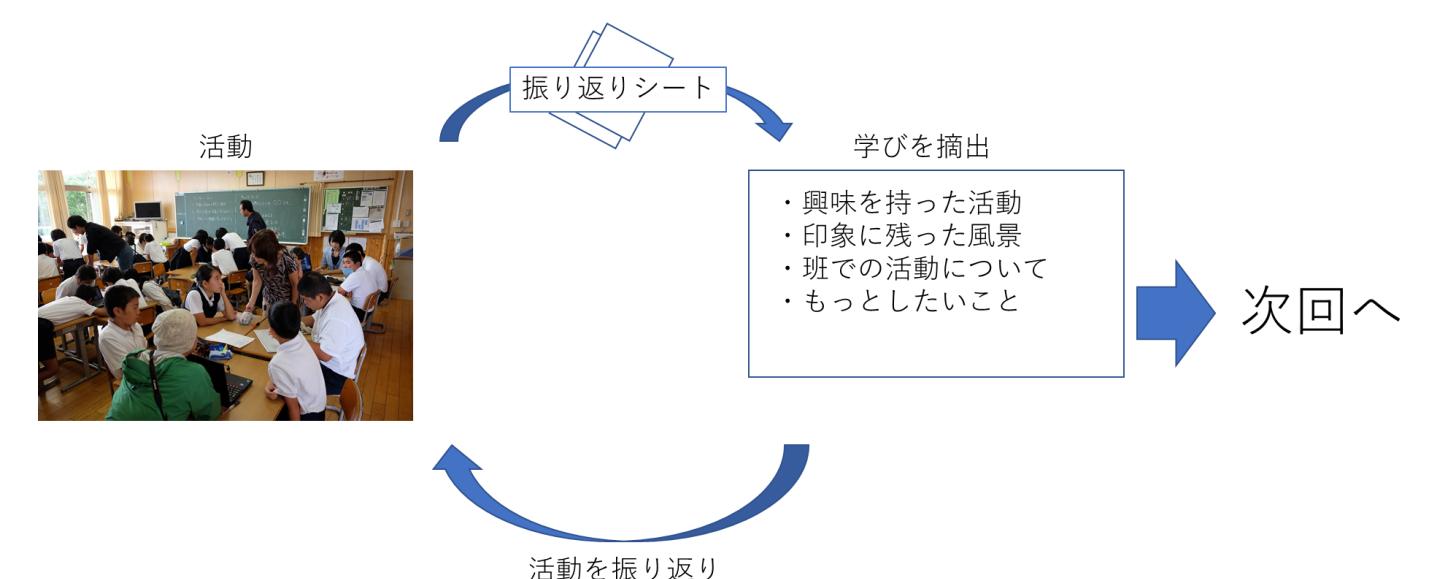


図1：活動を振り返り、学びを次に活かす